奈良女子大学日本史談話会主催シンポジウム

国家形成史上における古墳の意味

箸墓に始まるあの巨大前方後円墳がなぜ造られたのか、やはり気になる。箸墓は卑弥呼の墓だったのか、邪馬台国の所在地如何とあわせて、やはり気になる。気になれば、あらゆる機会をとらえて対話をしてみるのがいい。できるだけ多様な視点を交えながら。かつてソクラテスもいったように、対話こそ人間が有する唯一の真理発見法だからである。必然なき偶然の出会いもまた、知を高める重要なきっかけになるかもしれない。古墳論を手がかりに国家成立論が描ければと思う。

話題提供者

北條芳隆東海大学で考古学を専攻

邪馬台国と狗那国吉備と吉野ヶ里

保立道久東京大学で中世史を専攻

9 世紀史料から読み解く古墳論

小路田泰直奈良女子大学で史学史を専攻

記紀と神々の革命崇神天皇紀の読解法

日時／場所：2011 年 10 月 23 日（日）午前 10 時～午後 3 時
奈良女子大学大学院棟（F 棟）5 階大会議室

参加自由&無料

連絡先：奈良女子大学文学部小路田研究室　☎/fax0742-20-3311